

## 「英国総選挙」の結果について

一般社団法人 関西経済同友会  
代表幹事 鈴木博之

- 昨日、英国で下院総選挙が行われ、政権政党であった保守党が第一党を堅持したものの改選前の議席を下回り、議席の過半数を割り込む結果となった。解散当初の争点となっていた欧州連合（EU）離脱のあり方に加えて、撤回された高齢者の社会保障費に関する税制改正問題、選挙期間中に2回発生したテロに起因する治安対策等につき、英国国民の民意が大きく割れている様子がうかがえる。
- 英国下院は、いずれの政党も議席数が単独過半数に満たない状況であり、複数政党による連立や閣外協力が必要となる。メイ首相は選挙結果に対する責任を問われる可能性もある。今後、英国において政治的空白期間が生じることのないよう、一刻も早い組閣と首班の指名を期待する。
- EUからの強硬離脱に関しては、英国国民自体が大きな不安を持っており、多くの国々もEU単一市場の存続を願っている。次期政権においては、この点を念頭に、EUとの丁寧な対話を通じ、世界経済に与える影響を最小限に抑えるための努力を期待する。

以上